

# 保育界

2015  
3



発行 日本保育協会

## 草原のビオトープ

公益財団法人 日本生態系協会  
教育研究センター長 田邊龍太

自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にする心を育みます。  
こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



イネ科の野草を大切にする平岡幼稚園（神奈川県）の園庭／「全国学校・園庭ビオトープコンクール2013」で日本生態系協会賞を受賞

### 『野草は抜かずに刈る』



「毎年春になると、野草がちゃんと生えるかドキドキします。草原は園児にとって宝箱みたいなものですから」とは、ある保育所の施設長のお話し。草原のビオトープの魅力は、その多様性にあります。園児の手が届くところに、いろいろな花や実、葉があり、バッタやカマキリなど様々な生きものと出会うことができます。園児にとっては、季節を感じ、ままごと、探検、虫探しなどたくさん遊びが可能な空間です。

園庭に野草が生えてくると、抜かれる方を多く目にします。抜くことにより、園児の宝箱を捨ててしまっています。見た目の問題であれば、抜くのではなく短い丈で刈るようにしましょう。一度に全て刈らない、ゾーンを区切って刈る頻度を変えたりすることで、野草の種の多様性が増し、宝箱はさらに充実します。野草は、自然の大切な一員です。園児には、普段の遊びを通じて、野草の面白さ、美しさ、そして大切さを伝えていきたいものです。

#### ■日本生態系協会 企画『ドイツ・自然とのふれあいを大切にする園づくりツアー2015』

本ツアー（14回目）では、自然を活かした保育環境づくりを積極的にすすめるドイツの保育所・幼稚園、そうした取組を支援する行政機関などを訪問します。

期間は8月17日（月）～23日（日）の7日間を予定。募集人員は20名程度。

詳しくは、日本生態系協会（TEL 03-5951-0244）までお問い合わせください。